

11/26(日)のシンポジウムを皮切りにスタートした「ましきまちづくりスクール」。
12/16(土)・17(日)に開催されたスクール前半の活動の様子をお伝えします。

Day1/Day2 速報レポート

ましきまちづくりスクール

開催概要

「ましきまちづくりスクール」は、まちづくりの取り組みを講師レクチャーやグループワーク（現地調査や企画立案など）を通して実践的に学ぶプログラムです。

横町線を対象地に「500mからはじまるまちづくり」をテーマに募集、10名の受講生を迎えてスタートしました。

全4日間のスクールプログラムの前半となった今回は、受講生のチームアップ、講師2名のレクチャー、現地調査、コンセプトメイキングなどのグループワークを行いました。

スケジュール

Day1 12/16 sat.

- オープニング
- ガイダンス
- 町・県事業について
- 講師レク：三上氏
『水戸のまちなか再生 大通り協議会と官民連携まちなか再生推進事業』
- 現地調査（まちあるき）
- グループワーク「現地調査結果まとめ」
- エスキス（発表／講師との意見交換）

Day2 12/17 sun.

- 講師レク：星野教授
『デザインコンセプトについて
あるいは“なぜ”にこたえる』
- グループワーク「コンセプトメイキング」
- エスキス（発表／講師との意見交換）
- 横町線周辺住民との意見交換会

講師レクチャー

水戸のまちなか再生

大通り協議会と官民連携まちなか再生推進事業

12/16は「水戸まちなかりビング作戦」などの社会実験を手がける三上氏にご講義いただきました。

約20年に渡り水戸のまちづくりに民間事業者として取り組んできたストーリーとともに「バックキャストイング」で考えて取り組んできたことが語られました。また社会実験などの取り組みは**社会的成果に繋がられるか**どうか重要であり、瞬間的な成功で終わっては意味がないことをお聞きました。

デザインコンセプトについて

あるいは“なぜ”にこたえる

12/17は益城町とも関わりの深い熊本大学 星野教授にデザインコンセプトをテーマにご講義いただきました。

都市の魅力は「カッコいい大人がいる」ことではないか、という話からスタート。良い取り組みには**構想と具体の形（プロジェクトなど）の間をつなぐ考え方＝コンセプト**が重要であることが語られました。今回のスクールの取り組みにおいては、**5W1Hに答える**ことがプロジェクトの全てであろうということをお聞きました。

町・県復興事業について

町復興整備課の奥村氏、県益城復興事務所の野原氏から周辺事業について説明。ハード面の事業だけでなく、木山エリア周辺で展開されるまちづくりの取り組みなどについても説明を受けました。



(株)ミカミ代表・(株)まちみとラボ代表
三上靖彦氏 / 都市・地域経営

1959年水戸市生まれ。筑波大学大学院修士課程を経て、さまざまなまちづくりに携わる。株式会社ミカミ代表。現在では、株式会社まちみとラボ代表も務め、水戸の歴史と文化、芸術を活用して水戸のまちに新たな価値を創造し続けている。



熊本大学 大学院教授
星野裕司氏 / 景観デザイン

1971年生まれ。東京大学大学院工学系研究科修了後、株式会社アール総合計画事務所を経て現職に至る。専門は景観デザイン。社会基盤施設のデザインを中心に様々な地域づくりの研究・実践活動を行う。



グループワーク～意見交換

各グループは所属や専門の異なる3～4人で構成されています。Day1では横町線の現地調査（まち歩き）を実施。横町線のポテンシャルや課題などを現場で確認しました。Day2はグループ内での議論を中心に、横町線の課題解決や魅力創出に向けた取組みの軸となるコンセプトを講師とのエスキスも交えながら練り上げていきました。

Day2の最後では区長・まちづくり協議会会長など地域住民の方々4名にお集まりいただき、各班の現地調査の結果と取組みの方向性・コンセプトについて発表。住民の方々の率直な感想をお聞きしました。

住民の方からは「自分達にはない視点でありがたい」といった感想をいただくとともに、受講生のアイデアに刺激を受け、地域の実情なども踏まえた上でもっとこうしたらいいのではないかとアイデアも寄せられ、受講生と住民の間での活発な意見交換が行われました。



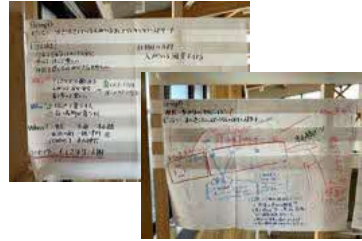
group A 夜の横町線を楽しむ場 復興からチャレンジできる道へ

Aグループは視野を広げて夜の横町線やサンジ像との連携について議論。これからが期待される台湾の夜市文化にも触れ、夜の通りの風景やミナテラスまでの動線をつくることを考えています。



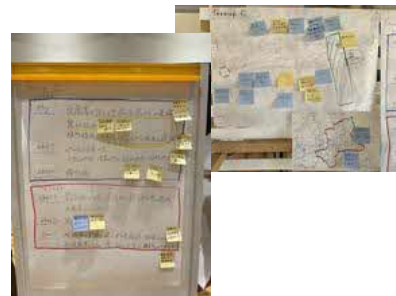
group B 生き活きている人がいる益城らしい メインストリート

Bグループは日常の暮らしの風景に着目。暮らしたくなる、戻ってきたくるような場所になるにはどうすればいいか。「すてきな生活圏」を実現するための仕掛けづくりを考えています。



group C

Cグループは「年1回」開催の「初市」と「益城の美味しい野菜」に着目。生産者と地域住民が朝市や料理イベント等を通じてつながり、益城の野菜を知るとともに横町線への出店のきっかけにもなればと考えています。



各班の成果はにじいろに掲示していますのでぜひご覧ください！

活動風景



1. 現地調査&まち歩き

2. グループワーク

3. ゲストレクチャー
& 講評会・意見交換

4. 社会実験/
まちづくりイベント



1/21(日)シンポジウム②「地域と生きる専門家、未来に生(活)きるまちづくり」

1/27(土)・28(日)まちづくりスクール Day3/Day4(後半)につながります。

引き続きましまちづくりスクールにご注目ください。

企画：益城町地域おこし協力隊

編集：中村康佑(益城町地域おこし協力隊)

発行：ましまちづくりスクール事務局